

令和 5 年 5 月 15 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02552

研究課題名（和文）大正・昭和期における住宅関連産業の展開と「暮らし」の変容に関する総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study on the development of housing-related industries and the transformation of "life" during the Taisho and Showa periods

研究代表者

中西 聡 (NAKANISHI, Satoru)

慶應義塾大学・経済学部（三田）・教授

研究者番号：20251457

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「暮らし」の変容に大きな影響を与えた住空間の変化に着目して、住空間の変化に対応する諸産業の林業・陶磁器業・鉱山業を取り上げ、その展開と「暮らし」の変容の実態を総合的に研究した。そして、林業と鉱山業については、奈良県吉野郡下市の永田家の事例研究を、陶磁器業については、愛知県名古屋と岐阜県多治見の陶磁器業界の事例研究を、「暮らし」の変容については、愛知県津島の堀田廣之家の事例研究を行った。それぞれについて詳細な研究成果をまとめることができたが、それらの連関を深めて、大正・昭和期の「暮らし」の変容を総合的に解明する課題が今後に残された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近現代日本の住環境に重要な関連をもつ林業・陶磁器業・鉱山業および、近現代日本の消費生活の展開それぞれについて詳細な事例研究を行うことで、生活用品やエネルギー源の供給側と受容側の両方の側面から両者の関連を解明し得た。特に、近代日本の吉野林業は、環境維持との折り合いをつけた持続的育林経営を進めており、本研究によって、持続的経済発展への重要な知見を得ることができた。また、消費生活面からも、家庭用エネルギーでは第二次世界大戦後まで薪炭が根強く利用されており、再生可能資源に依拠した生活様式への知見も得ることができた。

研究成果の概要（英文）： This study focused on the changes in living space and took up the forestry, ceramics and mining industries in response to the changes in living space. And then it comprehensively investigated their development and the actual conditions of the transformation of living space. The case study of the Eida family in Shimoichi, Yoshino County, Nara Prefecture, was conducted for forestry and mining, the case study of the ceramics industry in Nagoya, Aichi Prefecture, and Tajimi, Gifu Prefecture, was conducted for ceramics, and the case study of the Hiroyuki Hotta family in Tsushima, Aichi Prefecture, was conducted for the transformation of "life." Although we were able to compile detailed research findings on each of them, we are left with the task of deepening the linkages among them and comprehensively analyzing the transformation of "life" during the Taisho and Showa periods.

研究分野：近現代日本社会経済史

キーワード：住環境 住宅産業 林業 鉱山業 陶磁器業 消費生活 暮らし 大正・昭和期

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した2017年度の日本は、長期の不況からなかなか脱せないでいる状況で、人々の「暮らし」を守ることが社会的課題となっていた。歴史学の分野でも、「消費生活」の視点から現代日本を捉え直そうとの研究が進められており、消費者の購買行動に焦点が合わされ、その対象は、主に衣料品や食料品であった。一方、当時、研究代表者らが進めていた家計史料の分析では、衣料品や食料品の内容変化は比較的緩やかに洋風化が進展したのに対し、住空間の生活設備は、大正・昭和期に急激に変化していた。

2. 研究の目的

そこで、「暮らし」の変容と関連させて、住空間を大きく変えることになった建築・家具素材産業の製材業、食器も含めて生活設備に関連する陶磁器業、エネルギーに関連する鉱山業を取り上げ、その展開と「暮らし」の変容の実態を、総合的に研究することとした。産地として、日本でそれぞれ有力であった、林業産地の奈良県、石炭業産地の北海道、陶磁器業産地の愛知県を主な対象とし、また「暮らし」の変容については、名古屋周辺の大都市化に伴う生活環境の変化と関連させて研究することとした。そして、第二次世界大戦前とその戦後の生活環境からみた連続面と断絶面の検討を含めて、高度経済成長期以後の消費生活の多様化に人びとがどのように対応してきたかを解明する。

3. 研究の方法

実地調査の業種に対応させて、製材・鉱山業班、陶磁器業班、そして「暮らし」の変容を建築史・社会経済史・教育史・農村社会学・エネルギー史・歴史地理学などの視点から学際的に研究する生活環境班を設置し、それぞれ班ごとに史料調査と共同研究を進め、各班の研究成果や進行状況を研究組織全体で共有するための研究会を適宜開催した。そのため、以下の研究成果も、班別の研究成果をまず示した上で、全体的な研究成果をまとめることとする。

4. 研究成果

(1) 製材・鉱山業班は、奈良県吉野郡下市で大規模に林業を営み、合わせて北海道釧路で石炭業も営んだ廣瀬屋永田藤兵衛家の史料群の共同調査と研究を行った。その研究成果は、2021年度に社会経済史学会大会のパネルディスカッションで発表するとともに、それに新たな知見を加えて共同学術書にまとめ、それが2023年度に刊行される予定であるため、その共同学術書の内容を概略する。同書では、廣瀬屋永田家の林業経営を通して吉野林業の特徴を捉えるとともに、吉野の林業家が関西地域経済に大きな影響を与えてきたことを論証した。

廣瀬屋永田家の近代期の林業経営は大きく3つの時期に分けられる。第1の時期は1900年代までで、林地と立木の両方を所有して林地の地元百姓に山守(林地管理人)を依頼して、伐採期の長い丁寧な育林経営を行った。第2の時期は1900年代後半から1920年代前半までで、産業化・都市化の進展とともに木材需要が急拡大したことを受けて、永田家は林業経営範囲を拡大し、奥地に製材工場を設置して、紀伊山地奥地の原生林の大規模な伐出・製材経営を展開した。この原生林においては、限られた期限の立木伐出権のみを取得して伐出・製材しており、これまで永

田家が行ってきた育林経営とは方向性がかなり異なった。第3の時期は1920年代後半以降で、紀伊山地奥地の原生林の伐出・製材事業を終了し、再び従来型の育林経営に戻ったものの、その育林経営を紀伊山地奥地へ拡大した。その際、永田家が単独で林地を取得するのではなく、複数の林業家で林地を共有し、その地域の林業家に山守として林地管理を依頼した。こうした永田家の林業経営の拡大に合わせて、林業の産業化が紀伊山地全体に広がり、両大戦間期日本の木材重要の増大に対応するとともに、第二次世界大戦後の復興期に日本の森林資源を十分に利用するために拡大造林政策が行われる歴史的な前提となった。

このように永田家が林業経営を紀伊山地奥地まで拡大し得た要因に、鉄道・電力インフラの整備があり、特に、永田家本拠の市から紀伊山地奥地の洞川まで電気索道が開設され、電気供給が紀伊山地奥地まで可能になるとともに、木材輸送も容易になったことが大きかった。とは言え、丸太材は鉄道輸送に不向きであり、丸太の河川流送は鉄道開通後も根強く継続した。そして、吉野林業は、基本的に伐採期の長い丁寧な育林経営として行われており、長期間かけて林産資源を持続的に利用していく理念がそこに貫かれていた。

永田家は林産資源を持続的に利用して資金化していくことで、長期的に資産を蓄積し、その資産が姻戚関係などを通して関西地域全体の産業化へ大きく寄与した。例えば、永田家の親戚であり、大阪で銀行を営んだ逸身家は、北海道の鉱区採掘権を所有して鉱業会社の経営に関わり、結果的に逸身家を助けて、永田家も北海道の石炭業に乗り出した。林業と石炭業はともに山の資源を提供する産業で、薪炭と石炭は近代日本のエネルギー源として重要であった。永田家は山の資源提供を通して、両大戦間期日本の都市化と産業化を下支えする役割を果たしたと言える。

(2)陶磁器業班は、名古屋の陶磁器センタービルに保管された陶磁器関連史料群や岐阜県多治見の陶磁器商組合の史料群を利用して、近現代日本の愛知・岐阜県の陶磁器業の展開の共同研究を進めた。その研究成果は、2019年の経営史学会大会のパネルディスカッションで発表するとともに、それ以外の研究成果も含めて、2020年度末に冊子体の研究成果報告書(陶磁器業班)を作成してまとめた。よって、その研究成果報告書の内容を概略する。

陶磁器業班の共同研究の特徴は、研究者と陶磁器業界の密接な協力のもとに行ったことである。陶磁器センタービル保管史料については、共同で整理して目録を作成し、業界の方々の参加を得て、研究者メンバーの研究報告会を行い、冊子体の研究成果報告書には、整理した資料目録を収録するとともに、研究者の研究報告のみでなく、陶磁器業界の方々にも寄稿してもらった。そのため、文書史料の分析と聞き取り調査の成果が組み合わされた臨場感のある研究成果となった。パネルディスカッションでの発表は、第二次世界大戦を挟んで、昭和戦前期と昭和戦後期の陶磁器業界の共通点と相違点を論じるもので、名古屋の輸出陶磁器業、多治見の陶磁器商業組合、陶磁器業におけるトンネル窯技術の3つのテーマを取り上げた。

パネルディスカッションでの発表は、2021年度に小特集として学術雑誌『経営史学』に掲載されたが、名古屋の輸出陶磁器業では、戦前期に築かれた技術的基盤の上に、戦後の貿易における政府からの支援もあって、戦後復興期に速やかに業績が回復したこと、多治見の陶磁器商業組合では、戦時期に統制が強まったものの、戦後に統制事業が行えなくなった後も、金融事業・共同仕入などの戦前からの事業を引き継いだこと、トンネル窯技術では、戦前以来の工業高等教育を受けた技術者ネットワークの上に、戦後に行われた業界各社の技術公開の意義が大きかったことが論じられた。全体として、昭和戦前期から戦後期への陶磁器業界の成長に連続的側面が大

きかったことが主張された。

冊子体の研究成果報告書には、こうしたパネルディスカッションでの発表成果に加えて、陶磁器業界の方から、高度経済成長期の陶磁器輸出組合の役割や、陶磁器業界における名古屋製陶所の役割などについての寄稿があり、研究者メンバーからも、陶磁器業界と政治家の関係、陶磁器業界で最大の企業グループを形成した森村グループについてなど多様な寄稿を収録している。陶磁器業界は、日本国内における需要が減少して厳しい時期を迎えているが、食器・衛生陶器・タイルなど、近現代日本の住空間を構成する重要な素材であり、その展開を、業界の方々との共同作業で明らかにし得たと考えられる。

(3)生活環境班は、名古屋周辺の津島市の旧堀田廣之家住宅に残された史料群(堀田廣之文庫)を、建築・経営・教育・娯楽・家計など多様な側面から共同で研究した。それが可能になったのは、堀田廣之文庫に同家の生活環境を多面的に明らかにする多様な史料が含まれていたからで、研究メンバーは、堀田廣之文庫の整理と史料目録を作成するとともに、史料所蔵者からの聞き取り調査も行った。共同研究成果は、2021年度の政治経済学・経済史学会大会のパネルディスカッションで発表するとともに、それ以外の研究成果も含めて、2022年度末に冊子体の研究成果報告書(生活環境班)を作成してまとめた。よって、その研究成果報告書の内容を概略する。

パネルディスカッションでの発表は、堀田廣之家の家業に関することであり、新田経営と花卉園芸経営と尾西鉄道会社への経営参加を取り上げた。新田経営は、もともと堀田廣之家の本家が近世期から大規模に行っており、堀田廣之は本家の代理で、新田経営会社に経営参加しており、分家した後も、本家の新田経営を差配していた。堀田廣之家の新田経営は、1910年代～20年代に熱心に行われたが、堀田廣之自身は、本家とは別に自ら花卉園芸業を1920年代後半から始め、1930年代以降はそれが家業となった。1930年代は名古屋の都市化が急激に進み、大都市向け花卉需要も急増しており、堀田廣之が津島で始めた花卉園芸業は同地の草分けとなった。その一方で、堀田廣之は学生時代の自らの保証人であった高木益太郎を助けるため、地元津島に本社を置く、尾西鉄道会社の経営にも1920年代前半に関与し、最終的に同社が名古屋の民営鉄道会社に吸収合併される際に、会社清算業務の重責を担った。両大戦間期の津島は繊維産業の産地とされるが、農業地帯の中心的町場でもあり、堀田廣之家のように農業の産業化を熱心に進めた家の存在も地域社会に重要であったことが指摘し得る。

冊子体の研究成果報告書には、こうしたパネルディスカッションでの発表成果に加えて、作成した堀田廣之文庫目録も掲載し、研究者メンバーからも、堀田廣之の学生時代の学びについて、堀田廣之の青年時代の旅行について、旧堀田廣之家住宅の特徴について、堀田廣之家の消費生活についてと多様な視点からの寄稿を収録し、全体として堀田廣之家の近代から昭和戦後期までの生活環境を総合的に論じることができた。それが可能になったのも、堀田廣之が丁寧に日記を書いていた上に几帳面に史料を残していたからであり、堀田廣之とその家族のライフヒストリーを通して、地域社会の変容を具体的に明らかにすることが可能となった。

(4)本研究プロジェクトは上記の3つの班に分かれて、それぞれまとめた史料群を共同で整理し、史料目録を作成し、それと並行して共同研究を進めて、学会大会のパネルディスカッションでそれぞれ研究成果発表を行うことができた。その後の研究成果のまとめ方は、製材業・鋳業班は、共同学術書の刊行、陶磁器業班と生活環境班は冊子体研究成果報告書の作成と異なったが、

それぞれ研究成果を形にすることができた（製材業・鋳業班は刊行予定）。とすれば、これら3つの班の成果をどのように総合するかが今後の課題となる。

今回は、新型コロナウイルス感染禍と重なったため、そこまで至らなかったが、堀田廣之家のみでなく、名古屋市周辺の尾西地域で、別の家の史料群の共同研究も進めており、製材業・鋳業班の研究成果と陶磁器業班の研究成果を取り入れて、尾西地域の複数の家の「暮らし」の変容を比較することで、尾西地域の生活環境の近代から現代への展開を総合的にまとめる作業に取り掛かっている。発表形態は、共同学術書の刊行を念頭に置いており、その刊行をもって本研究プロジェクトの総まとめと位置付けたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中西聡	4. 巻 114-2
2. 論文標題 近代日本の木材市場と材木商の活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三田学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 87-3
2. 論文標題 近代日本の林業経営の特質とその展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 29-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 57-1
2. 論文標題 近代日本における三重県南部地域の林業経営	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 3-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 115-1
2. 論文標題 近代日本における林業会社の経営展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三田学会雑誌	6. 最初と最後の頁 17-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 115-3
2. 論文標題 近代日本のガス・電気事業と鉱山業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三田学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北澤満	4. 巻 85-5・6
2. 論文標題 明治後期釧路地方における石炭販売	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済学研究 (九州大学)	6. 最初と最後の頁 95-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森一宏	4. 巻 56-2
2. 論文標題 輸出陶磁器業にみる連続と断絶	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺村泰	4. 巻 共著書
2. 論文標題 戦後北米向け陶磁器輸出における輸出カルテルの実態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武田晴人編 『高成長期日本の産業発展』 東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 95-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田幸敏	4. 巻 56-2
2. 論文標題 陶磁器商業組合の機能と活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田幸敏	4. 巻 3-1
2. 論文標題 日本陶磁器輸出組合の機能	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紀要 (愛知学泉大学)	6. 最初と最後の頁 91-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木山実	4. 巻 56-2
2. 論文標題 陶磁器業界における技術革新	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 62-3
2. 論文標題 近代産業地域社会における「生活」と「労働」の再編過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 299
2. 論文標題 働く心身は誰のものか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯澤規子	4. 巻 50-2
2. 論文標題 近代都市の惣菜史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 188-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 満園勇	4. 巻 70-2
2. 論文標題 両大戦間期東京市における小売商店の職住関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済学研究 (北海道大学)	6. 最初と最後の頁 45-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 満園勇	4. 巻 14-1
2. 論文標題 「かしこい消費者」規範の歴史的位	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会政策	6. 最初と最後の頁 68-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 243
2. 論文標題 戦前期における資産家層の贈答文化と生活	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西聡	4. 巻 112-4
2. 論文標題 近代日本における林産地と林業資産家	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三田学会雑誌	6. 最初と最後の頁 91-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木山実	4. 巻 170
2. 論文標題 松風工業に関する試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究双書 (関西大学経済・政治研究所)	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川卓治	4. 巻 25
2. 論文標題 日露戦後におけるある青年の進路選択と生活世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育史研究室年報 (名古屋大学)	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 満園勇	4. 巻 243
2. 論文標題 「かしこい消費者」の成立史をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口由等	4. 巻 4
2. 論文標題 知多半島の巡礼文化と知多四国霊場	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北澤満	4. 巻 85-5・6
2. 論文標題 明治期における中小鉱業経営(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学研究(九州大学)	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大森一宏	4. 巻 27-2
2. 論文標題 高度経済成長期におけるモザイクタイル製造業の発展	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 駿河台経済論集	6. 最初と最後の頁 135-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中西聡
2. 発表標題 永田家の林業経営の概観とその特質
3. 学会等名 第90回社会経済史学会全国大会パネル・ディスカッション
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊恵一
2. 発表標題 鉄道開通前後における吉野材の市場と輸送
3. 学会等名 第90回社会経済史学会全国大会パネル・ディスカッション
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北澤満
2. 発表標題 永田家の大阪鉱業株式会社経営
3. 学会等名 第90回社会経済史学会全国大会パネル・ディスカッション
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中西聡
2. 発表標題 堀田廣之家の概要と津島地域経済
3. 学会等名 2021年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル・ディスカッション
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 出口雄大
2. 発表標題 1910年代～20年代における堀田家の土地経営
3. 学会等名 2021年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル・ディスカッション
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 近代日本の花卉園芸業と愛知県の動向
3. 学会等名 2021年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会パネル・ディスカッション
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 満園勇
2. 発表標題 「かしこい消費者」規範の歴史的位罫
3. 学会等名 社会政策学会第143回大会共通論題報告
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 東京本所・深川区における労働者の食空間と生活世界
3. 学会等名 第65回歴史地理学会大会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 食空間の比較歴史地理学
3. 学会等名 2022年人文地理学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今給黎佳菜
2. 発表標題 モリムラ・ブラザーズの陶磁器販売戦略
3. 学会等名 経営史学会第57回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大森一宏
2. 発表標題 輸出陶磁器業にみる連続と断絶
3. 学会等名 経営史学会第55回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田幸敏
2. 発表標題 陶磁器商業組合の機能と活動
3. 学会等名 経営史学会第55回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木山実
2. 発表標題 陶磁器業界における技術革新
3. 学会等名 経営史学会第55回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 湯澤規子
2. 発表標題 近代産業地域社会における「生活」と「労働」の再編過程
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会2019年度秋季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中西聡
2. 発表標題 戦前における資産家層の贈答文化と生活
3. 学会等名 2018年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西聡
2. 発表標題 近代名古屋における会社設立と名古屋財界
3. 学会等名 地方金融史研究会夏期合宿研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北澤満
2. 発表標題 明治期における関西地方資産家の鉱業経営
3. 学会等名 経営史学会西日本部会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 湯澤規子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 247
3. 書名 ウンコはどこから来て、どこへ行くのか	

1. 著者名 満園勇	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 416
3. 書名 日本流通史	

1. 著者名 中西聡・二谷智子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 422
3. 書名 近代日本の消費と生活世界	

1. 著者名 中西 聡	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 543
3. 書名 資産家資本主義の生成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北澤 満 (KITAZAWA Mitsuru) (10362261)	九州大学・経済学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	渡邊 恵一 (WATANABE Keiichi) (00267387)	駒澤大学・経済学部・教授 (32617)	
研究分担者	中西 智子(二谷智子) (NAKANISHI FUTAYA Tomoko) (60734853)	愛知学院大学・経済学部・教授 (33902)	
研究分担者	山口 由等 (YAMAGUCHI Yoshito) (90326009)	流通経済大学・経済学部・教授 (32102)	
研究分担者	大森 一宏 (OMORI Kazuhiro) (90247594)	駿河台大学・経済経営学部・教授 (32411)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	寺村 泰 (TERAMURA Tai) (20197809)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	藤田 幸敏 (FUJITA Yukitoshi) (30238589)	福井工業大学・環境情報学部・教授 (33401)	
研究分担者	木山 実 (KIYAMA Minoru) (30340897)	関西学院大学・商学部・教授 (34504)	
研究分担者	西澤 泰彦 (NISHIZAWA Yasuhiko) (80242915)	名古屋大学・環境学研究所・教授 (13901)	
研究分担者	満園 勇 (MITSUZONO Isamu) (40735750)	北海道大学・経済学研究所・准教授 (10101)	
研究分担者	吉川 卓治 (YOSHIKAWA Takuji) (50230694)	名古屋大学・教育発達科学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	湯澤 規子 (YUZAWA Noriko) (20409494)	法政大学・人間環境学部・教授 (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中西 僚太郎 (NAKANISHI Ryotaro)		
研究協力者	古池 嘉和 (KOIKE Yoshikazu)		
研究協力者	加藤 慶一郎 (KATO Keiichiro)		
研究協力者	長廣 利崇 (NAGAIRO Toshitaka)		
研究協力者	小堀 聡 (KOBORI Satoru)		
研究協力者	加藤 諭 (KATO Satoshi)		
研究協力者	手塚 雄太 (TEZUKA Yuta)		
研究協力者	松木 孝文 (MATSUGI Takafumi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	服部 亜由未 (HATTORI Ayumi)		
研究協力者	青木 健 (AOKI Takeshi)		
研究協力者	出口 雄大 (DEGUCHI Yudai)		
研究協力者	芳賀 和樹 (HAGA Kazuki)		
研究協力者	今給黎 佳菜 (IMAKIIRE Kana)		
研究協力者	原 遼平 (HARA Ryohei)		
研究協力者	穂苅 博人 (HOKARI Hiroto)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------